

# 芸術科（音楽Ⅱ）学習指導案 MetaMoJi 活用

MetaMoJi 活用ポイント：ノートを編集しながら音声や動画を録音

～ねらいに応じて、音楽表現を記録し、生徒自身が1時間の学びの実感を味わう MetaMoJi の活用～

- 1 題材名 ギターアンサンブルを味わう 教材名 「O sole mio」(器楽)
- 2 題材の目標 ギターの音色や旋律、リズムの特徴を互いに聴き合いながら演奏する。
- 3 指導事項 「A 表現」(器楽)

- イ 楽器の音色や奏法の特徴と表現上のかかわりを理解し、表現を工夫して演奏すること。  
 ウ 様々な表現形態による器楽の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して演奏すること。  
 エ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して演奏すること。

## 4 題材の評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能
盛り込むべき事項 評価基準に	楽器の音色や奏法の特徴、様々な表現形態による器楽の特徴などに関心をもち、器楽の学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽器の音色や奏法の特徴を生かしたり、様々な表現形態による器楽の特徴を生かしたりして音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技術を身に付け、創造的に表している。
題材の評価規準	①ギターの音色や奏法の特徴と表現上のかかわりを理解し、イメージをもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。〈観察・ワークシート〉 ②小アンサンブルによる器楽の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	①ギターの音色の働きが生み出す特質や雰囲気などを理解し、楽器の音色や、奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 ②「O sole mio」のテクスチュア、リズムの働きが生み出す特質や雰囲気などを理解し、小アンサンブルによる器楽の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	①ギターの音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、音楽表現をするために必要な奏法、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方などを身に付け、創造的に表している。 ②小アンサンブルによる器楽の特徴と表現上の効果との関わりを理解し、音楽表現をするために必要な奏法、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方などを身に付け、創造的に表している。

## 5 主な題材の指導と評価の計画（5時間）



時	◆ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
	◆ギターの特徴と表現の関わりについて理解し、ギターの良さを生かした演奏に取り組む。	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を想起しながら、ギターの音色や奏法について、演奏したり、聴いたりしながら特徴を掴み、表現にどう生かされているのかを考え、ワークシートに書く。</li> <li>・意見交換をして、特徴と表現上の関わりについて理解を深める。</li> <li>・簡単な旋律を演奏しながら、ギターらしさを生かした演奏について、個人やペアで試行錯誤する。</li> </ul>	<p>《音楽への関心・意欲・態度①》 ギターの音色や奏法の特徴と表現上のかかわりを理解し、イメージをもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。〈観察・ワークシート〉</p> <p>《音楽表現の技能①》 ギターの音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、音楽表現をするために必要な奏法、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方などを身に付け、創造的に表している。〈演奏〉</p> <p style="text-align: right;"><b>MetaMoJi 活用① 音階演奏の録音</b></p>
2	◆「O sole mio」を演奏したり聴いたりして、音楽を形づくっている要素（旋律、音色、リズム）の働きが生み出す特質や雰囲気を理解し、音楽表現の工夫について自己の表現意図をもつ。	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「O sole mio」を弾いたり聴いたりしながら、旋律や音色、リズムの特質や、曲の雰囲気について気づいたことを話し合う。</li> <li>・この曲の演奏にふさわしい表現について、旋律の動きや、コードの変化による音色、リズムに着目して考え、自分がどのように演奏したいかの表現意図について、ワークシートに書く。</li> </ul>	<p>《音楽表現の創意工夫①》</p> <p>「O sole mio」の曲想とギターの色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出されるの表現上の効果を理解し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p> <p>〈観察・ワークシート〉</p>
3	<p>◆小アンサンブルによるギターの特徴と、表現のかかわりを理解し、アンサンブル演奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1つのパートのみで演奏した場合と、アンサンブル演奏を比較し、特徴や表現上の効果をワークシートにまとめる。</li> <li>・ワークシートに書いた内容を参考に、アンサンブルを味わいながら演奏する。</li> </ul>	<p>《音楽への関心・意欲・態度②》</p> <p>小アンサンブルによる器楽の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>〈観察・ワークシート〉 <b>MetaMoJi 活用② 演奏の録音</b></p>
	4	本時の展開参照
5	<p>◆互いの音を聴き合いながら「O sole mio」の小アンサンブル演奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜やワークシートに書いた内容を見て、表現したいことを具体的にイメージしながら「O sole mio」のアンサンブル演奏をする。</li> <li>・録音した演奏を聴き、演奏について振り返り自己評価をワークシートに書く。</li> </ul>	<p>《音楽表現の技能②》</p> <p>小アンサンブルによる器楽の特徴と表現上の効果との関わりを理解し、音楽表現をするために必要な奏法、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方などを身に付け、創造的に表している。〈演奏〉</p> <p><b>MetaMoJi 活用③ 演奏の録音</b></p>

## 6 本時のねらい

「O sole mio」のテクスチュア、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「O sole mio」にふさわしい器楽表現について表現意図をもつことができる。

## 7 本時の展開（4／5時間）

	学習活動	指導上の留意点・観点別評価
導入	<p>○調弦を行う。</p> 	<p>・チューナーを用いて正しい音に合わせる。</p>
	<p>○基本的な奏法について確認し、自己評価とペアチェックを行う。</p> <p>○アンサンブルの特徴について確認する。</p> <p>○「O solo mio」を通して演奏する。</p>	<p>ペアで学習を進める。タブレットにダウンロードしたアプリを使用し、ギターのチューニングも行う。</p> <p>タブレットを用いて動画を撮影し、ギターのかえ方や弾き方が正しいかどうかをペアで聴き合ったり、自分で振り返ることができるようにする。</p>  <p><b>MetaMoJi 活用 演奏の録音</b></p>
	<p>課題：各パートの特徴を生かし、アンサンブルの表現を工夫しよう</p>	

	<p>○それぞれのパートの特徴を共有する。</p> <p>○共有した特徴を踏まえて、アンサンブルとしてどのような表現をするのか考え、ワークシートに記入する。</p> <p>○アンサンブル演奏として目指す表現を話し合う。</p> <p>○話し合いの意見を踏まえ、表現したいことをイメージしながら演奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のワークシートに記入したことを想起させ、テクスチャについて視点を置きながら、アンサンブルを演奏させる。</li> <li>・音楽的な特徴について意見交換し、各パートの音を実際に聴いて確かめる。</li> <li>・相手のパートの特徴を生かすために、自分のパートの表現をどうするか、または自分のパートの特徴を生かすために相手のパートにどう表現してもらうかを考える。</li> <li>・仲間の意見をメモしながら、自分の考えを再構築する。</li> <li>・表現したいことをイメージしてから音を出す。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「O sole mio」のテクスチャ、リズムの働きが生み出す特質や雰囲気などを理解し、小アンサンブルによる器楽の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">《音楽表現の創意工夫》</p> </div>
<p style="text-align: center;">ま と め</p>	<p>○本時の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の表現意図を言語化したり、実際の演奏を録音して確かめたりして、本時の学びを振り返る。</li> <li>・2つのパートを調和させて表現するために必要な課題を明らかにし、次への見通しをもつ。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>MetaMoJi 活用 演奏の録音</b></p>

## 8 実践を通して

### (1) 成果

- ・題材を通して、撮影した動画を保存していくことで、ポートフォリオ評価につながった。  
ギター演奏の様子を動画で撮影して表現を残したり、自己評価をしたりすることを積み重ねることで、生徒自らが、前時の演奏と聴き比べ、自身の変化や成長に気付き、学びの実感をもつことにつながった。また、自ら課題を見出し、改善するためにどうするとよいか、質問をしたり、練習を工夫したりする姿も生まれた。
- ・生徒自身が自分の音楽表現に耳を傾け、聴く力がついた。正確なチューニングをできるようになった。  
本題材では、チューナーのアプリもタブレットに取り込んで、チューニングの際に使用した。音そのものをじっくり聴く、確かめるといった必然性が生まれていった。
- ・教師は、生徒の実態を把握し、次の時間の指導の在り方を考えることができた。

### (2) 「音声や動画の録音」に関して、さらに活用してみたいこと

- ・模範になる写真や動画を、生徒がいつでも見られるようにする。  
歌唱や器楽等、実技の活動において、姿勢や身体の使い方、基本的な奏法などを教師が事前に撮影し、生徒がつまづいたときに手本としていつでも確認できるようにすることで、個別最適化の指導につながる。

### (3) 課題

- ・音楽室等特別教室の ICT 環境整備。  
普通教室はプロジェクターが完備され、Wi-Fi 環境が整った。本校では、今回の実践後、音楽室にもプロジェクターを入れてもらうなど、特別教室は少しずつ整備が進められている。しかし、十分であるとは言えないのが現状である。一人1端末となるが、Wi-Fi 環境が十分でない、画面共有やクラスボックス等の使用など、MetaMoJi の機能を十分に生かしていくことは難しいと考える。
- ・ICT をどう活用すべきか、音楽科として身に付けさせたい資質・能力を育成するための活用の在り方を考えていく必要がある。最初は失敗するかもしれないが、まずは使ってみる・挑戦してみる事が大事であると考え。